神奈川自然誌資料 (11)：121～124, Mar. 1990

神奈川県産の注目すべき甲虫若干

高 桑 正 敏

Masatoshi TAKAKUWA : On Some Remarkable Beetles in Kanagawa Prefectural District, Central Honshu

断片的だが，記録にとどめておくべきと思われる神奈川県産の甲虫12種について報告する。これらの中には，神奈川県下から初めて記録されるものも含まれている。なお，同定は一部を除いては筆者による。採集データのうち，とくに断りのないものについては筆者の採集・保管である。

本文に先立ち，貴重な標本を恵与くださった神奈川県立博物館の松島義章博士，東京農業大学の益本仁雄氏，岐阜県博物館の長谷川道明氏，神奈川昆虫談話会の堀川正美氏，記録の発表を許された同会の芦沢一郎・岸一弘・久保浩一・苅部治紀の各氏，ならびにコガシラミズムシ科の同定をお願いするとともに標本を撮影してくださった名古屋女子大学の佐藤正孝教授に厚くお礼を申しあげる。

コガシラミズムシ科 Haliplidae

クビボソコガシラミズムシ

Haliplus japonicus SHARP

1頭，相模原市神沢，17. Ⅳ. 1986；5頭，同，6. Ⅸ. 1986；2頭，相模原市上大島，28. Ⅴ. 1986；1頭，城山町下倉，28. Ⅹ. 1988.

佐藤正孝教授同定。神奈川県からは平野（1985）により津久井郡藤野町の1個体が記録されている。相模川の中流域に限ってはかなり個体数が多いようで，大小の水溜りから普通に見出される。その一方では，筆者は相模川から本科の他の種を1頭も採集した覚えがない。

カミヤコガシラミズムシ

Haliplus kamiyai NAKANE

5頭，葉山町下山口峯山の大池，1. Ⅴ. 1989；18頭，同，16. Ⅹ. 1989.

神奈川県初記録種，佐藤正孝教授同定。本種の取扱いをめぐっては混乱があり，中根（1963，原色昆虫大図鑑，2：55）は本種にクビボソコガシラミズムシの和名を当てたが，佐藤（1984，甲虫ニュース，(65)：1－4）は本種を前種 *japonicus* のシノニムとし，クビボソコガシラミズムシの和名は中根以前の扱い（すなわち *japonicus* に当てる）に戻した。筆者はこの科のものの分類に自信がないが，相模川中流域の個体群（前種）とこの葉山町の個体群とでは明らかな形態差が認められるので，両者が別種関係にあることだけは確実かと思われる。なお和名は最近発行された「日本産昆虫総目録」に従った。

採集地の「峯山の大池」は横須賀市境近くの山中に位置し，県下では珍しい自然池である。苅部（1989，神奈川虫報，(88)：34-35）が報告しているように，マルガタゲンゴロウの現在では県内唯一の確実な生息地でもあり，筆者も1989年5月1日に多数の個体を確認した。なおこの池には，本科のものとしては次種とコガシラミズムシも生息する。

キイロコガシラミズムシ

Haliplus eximius CLARK

1頭，葉山町下山口峯山の大池，31. Ⅹ. 1988，苅部治紀採集・保管；12頭，同，16. Ⅹ. 1989.

神奈川県初記録種，佐藤正孝教授同定．典型的な個体とは体型がいくらか異なるという。稀な種（佐藤，前出）とされるが，1989年10月16日の調査に限れば，きわめて多数の個体を見出すことができた。おもしろいことに，苅部氏も筆者らも春の調査では1頭も採集していない。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

ヒメケシゲンゴロウ

Hyphydrus laeviventris SHARP

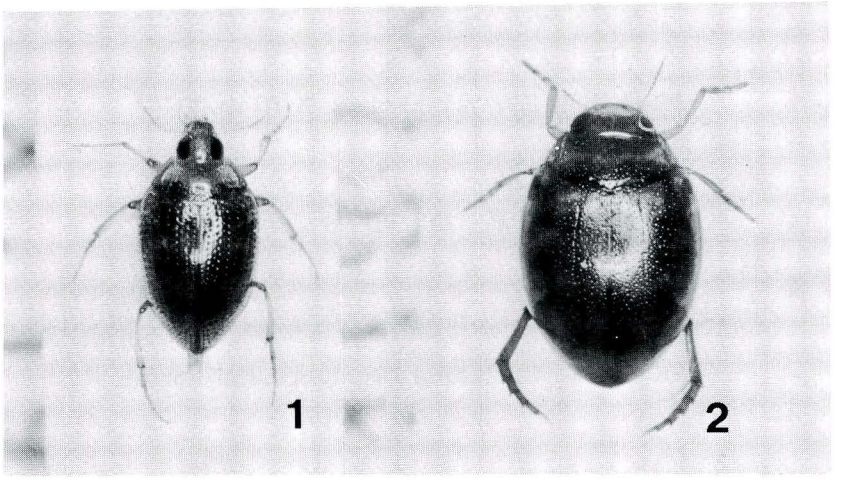

図1—2　葉山町峯山の大池産水棲甲虫2種．——1．キイロコガシラミズムシ *Haliplus eximius*; 2．ヒメケシゲンゴロウ *Hyphydrus laeviventris*（佐藤正孝教授撮影）

1頭，葉山町下山口峯山の大池，31. X. 1988，苅部治紀採集・保管；2頭，同，1. V. 1989；8頭，16. X. 1989.

神奈川県初記録種，佐藤正孝教授にも確認していただいた。同属の近似種ケシゲンゴロウ *H. japonicus* SHARP は高桑（1987，神奈川自然誌資料，(8)：85-88）により神奈川県から初めて記録されたが，その後の調査でも県内各地から採集されている（未発表）ものの，ヒメケシゲンゴロウは今回の記録地以外には発見されていないようである。両種は一見きわめてよく似るが，上翅の点刻の状態が異なるので，慣れれば肉眼でも区別できる。

なお，5月1日の調査の際には同時にケシゲンゴロウ1頭も採集されたが，10月16日の時はヒメケシゲンゴロウのみが得られた。

タマムシ科　Buprestidae

エサキキンヘリタマムシ

Scintillatrix kamikochiana (OBENBERGER)

1♀，清川村煤ヶ谷～物見峠，29. VI. 1975，芦沢一郎採集・神奈川県立博物館蔵.

神奈川県初記録種，小林信之氏にも確認していただいた。体長ちょうど15㎜とかなり大きな個体であり，また腹端のえぐれは中央で広角の逆V字状。本属の種は神奈川県から初めて知られるものだが，筆者にとっては1979年，丹沢最高峰の蛭ヶ岳山頂近くにおいて，白骨化した広葉樹の倒木に瞬間的に飛来し，手を出す間もなく逃げ去った本属の種らしい個体を，くやしく鮮明に思い出す。

クロケシタマムシ

Aphanisticus congener E. SAUNDERS

1頭，横浜市栄区自然観察の森，6. VIII. 1987.

神奈川県初記録種，秋山黄洋氏にも確認していただいている。高桑(1981 a)は神奈川県昆虫調査報告書の中で本種名をリストに掲げているが，これはクロチビタマムシの記録の引用誤りであり，すでに平野(1981)により県下のファウナから削除されている。

上記の個体は，ある観察会に参加していた小学生により手づかみされたもので，それを見せられた時の筆者の驚きは容易に想像していただけるだろう。ススキの葉上にいたということであった。

ツチハンミョウ科　Meloidae

ツマグロキゲンセイ

Zonitis cothurnata MARSEUL

1頭，鎌倉市植木，26. VII. 1988，松島義章採集.

本州では少ない種であり，神奈川県においては竹中（1961）による相模原市上鶴間と平野（1984）による真鶴の各1例が知られているにすぎなかった。上記2例はいずれも燈火に飛来したものだが，今回の採集例も松島博士のご自宅の壁面に朝方静止していたものということなので，これも燈火に飛来した個体である可能性が強い。

メノコツチハンミョウ

Meloe menoko KÔNO

1♂，箱根町芦ノ湯湯坂道，26. X. 1985.

成虫は晩秋だけに出現することでもあり，なかなか目につかない1種である。神奈川県ではこれまで平野(1970)による箱根大涌谷の1例しか知られていなかった。

ハナノミ科 Mordellidae

クリイロヒゲハナノミ

Higehananomia palpalis Kôno

1♂，横浜市旭区上星川，14. Ⅷ. 1966，益本仁雄採集；1♀，横浜市金沢区能見堂跡，30. Ⅵ. 1987，久保浩一採集・保管.

すでに養老（1958）が三浦半島で採集されていることを記しており，また県立横須賀高校生物部誌にその記録が掲載されているようだが，後者についてはいまだに調べることができないでいる。高桑(1981b)は神奈川県昆虫調査報告書の中でこれらの文献を見落し，またその後の平野幸彦氏による神奈川県産甲虫の一連のまとめにも登場することがなく，したがって本種は神奈川県のファウナから忘れられてきたような存在であった。ここに改めて，神奈川県産甲虫の1つとして記録しておく。

ウスキボシハナノミ

Hoshihananomia kurosai Chûjô et Nakane

1♂，横浜市泉区和泉町米軍戸塚無線通信所，5. Ⅷ. 1988，堀川正美採集；1♀，茅ヶ崎市堤天神原，23. Ⅶ. 1989，岸一弘採集・保管.

神奈川県初記録種．本州と屋久島に分布するが，既知の産地は少なく，高桑（1978，甲虫ニュース(43)：7-8）以降新たに知りえた分布県は福井のみである。上記の記録のうち泉区のものについては，採集者の堀川氏によると，いわゆる旧米軍深谷通信隊の雑木林においてコナラ伐木上から採集したという。栃木市や狭山湖のような低地でも得られているが，本種が横浜や湘南地方から発見されようとは，まったく予期できないことであった。なお福島大学の田添京二教授からの私信では，福島県下で1989年夏に本種の生態の一部が明らかとなり，成虫がクワの腐朽材から脱出することも判明したという（未発表）。

カミキリムシ科 Cerambycidae

オオトラカミキリ

Xylotrechus villioni Villard

モミへの幼虫食害痕：1本，清川村宮ヶ瀬，11. Ⅶ. 1986確認；数本，藤野町石砂山，3. Ⅳ. 1988確認.

図3　オオトラカミキリ *Xylotrechus villioni* の幼虫食害痕（藤野町石砂山）

本種は成虫での発見はきわめて難しく，また幼虫は生きた太枝ないし幹内に穿孔するためにその採集は法律的・倫理的に困難である。しかし，幼虫の食害痕は特異であり，生息の確認を行なうだけなら食害痕の有無を調べた方が有効である。神奈川県下では露木ら(1981)にあるように2例しか知られていなかったが，少なくとも津久井や東丹沢では広く分布しているものと考えられる。

クリチビカミキリ

Sybra (*Microzotale*) *kuri* Ohbayashi et Hayashi

1頭，箱根町仙石原，11. Ⅵ. 1987.

本種はクリの単食性だが，仙石原湿原内の草本をスイーピング中に得たから，まったく偶然の採集例である。神奈川県下では本種の記録はふしぎに少なく，これまでは露木ら（1981）による藤野町の採集例しかないようであり，もちろん小田原・箱根地方からは初めての採集例である。ただ，私の手許には多摩丘陵産の1個体（八王子市道了堂，2. Ⅵ. 1968，柏井伸夫採集）があり，局地的ながらも県下各地に分布している可能性も考えられる。

ブロイニングカミキリ

Saperda breuningi Ohbayashi

1♀，山北町皆瀬川，17. Ⅴ. 1982，長谷川道明採

集.

ヤマハンノキの生葉から採集したという。神奈川県下ではこれまで同所で採集された1頭（下村，1972；東京農大一高生物部，1972）しか記録がなかった。本種はクルミ類を主な寄主植物としているが，高桑（1979）が述べたように，オニグルミが比較的多い津久井地方や清川村土山峠付近(宮ヶ瀬ダムで水没する地域)での調査が望まれる。

引用文献（本文中に示したものは除く）

平野幸彦，1970. 小田原箱根地方産ツチハンミョウ科について．神奈川県虫報，(32)：21.

———— 1981. 神奈川県産甲虫雑記Ⅰ．同上，(64)：19-22.

———— 1984. 続・神奈川の甲虫．同上，(70)：27-48.

———— 1985. 同上（Ⅲ）．同上，(77)：11-23.

九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター編，1989. 日本産昆虫総目録Ⅰ．2+i−xi+2+540pp.

下村　徹，1972. ブロイニングカミキリ神奈川県に産す．昆虫と自然，**7**（12）：5.

高桑正敏，1979. 丹沢のカミキリ相雑記．神奈川虫報(58)：1-17，1pl.

———— 1981 a．神奈川県産タマムシ科目録．神奈川県昆虫調査報告書，pp. 399-403. 神奈川県教育委員会.

———— 1981 b．神奈川県のオオハナノミ科，ハナノミ科，ハナノミダマシ科．同上，pp. 417-418.

竹中英雄，1961. ツマグロキゲンセイを相模原市で採集する．昆虫学評論，**13**：34.

東京農業大学第一高等学校生物部，1972. 西丹沢皆瀬川流域の昆虫相．Field，(19)：28-42.

露木繁雄・新堀豊彦・窪田勝信・高桑正敏，1981. 神奈川県産カミキリムシ科目録．神奈川県昆虫調査報告書，pp. 419-454. 神奈川県教育委員会.

養老孟司，1958. 三浦半島の甲虫．神奈川虫報，(13)：1-4.

（神奈川県立博物館）